

令和4年度メトロITビジネスカレッジ学校関係者評価委員会 出席者一覧

実施日：令和5年3月14日（火）

※順不同

1. 評価委員

【業界関係者】

佐藤 康彦 様 システムファイブ株式会社 代表取締役

松山 賢二郎 様 日本紙工印刷株式会社 代表取締役社長

【教育関係者】

村元 宏行 様 活水女子大学 教授

【卒業生】

口木 陽平 様 NBC 情報システム株式会社

2. 学校運営関係者

【株式会社メトロコンピュータサービス】

川崎 孝 代表取締役

本田 多紀子 専務取締役

小濱 孝行 メトロITビジネスカレッジ校長

堀 啓輔 メトロITビジネスカレッジ副校長

以上

令和4年度メトロITビジネスカレッジ学校関係者評価委員会 議事録

1. 実施日時 令和5年3月14日(火) 10:00~11:30

2. 実施場所 株式会社メトロコンピュータサービス8階応接室

3. 参加者 別紙「出席者一覧」参照

4. 学校評価委員会議事内容

(1) 学生の状況

令和4年度の学生数(4月当初)

1年61名、2年41名、3年2名、計104名(休学除く)

令和4年度卒業生41名(1名退学、1名休学)

令和5年度の学生数

1年54名、2年56名、計110名(休学除く)

- ・既卒者が減少し、新規高校卒業者が増えた
- ・プログラマやデザイン等、卒業後の就職先が明確なものは伸びているが、事務・eスポーツ等、就職先が見えにくいものは希望者が減っている

【eスポーツ専攻について】

- ・来年度10名の学生を確保することを目標として取り組む
- ・専攻の名称が遊びのイメージにつながるので変更も検討してはどうか
→次年度の募集活動では検討も必要だが、eスポーツ感が無くなる懸念があるため工夫が必要
- ・退学および休学を防止するための受け皿としても活用できる内容にする
- ・外部への遠征、イベント参加など、外部との接触機会を増やすことでコミュニケーション力を育成することができる内容にする

(2) 学校自己評価の結果について

・OJTの取り組みについて

メトロコンピュータサービスの協力もあり、令和4年度からOJTの授業にも力を入れている

・楽しい学校生活

図書の内容の更新(新規蔵書を増やした)

レクリエーションの回数も増やしたことで評価も改善が見られた

- ・高度エンジニア・プログラマ専攻については資格取得に関する満足度が高かった
→国家試験の合格率が高かったのが要因だと思われる
- ・コミュニケーション力育成についての取り組みが不足している
→OJTを取り入れることでコミュニケーション力育成の材料としたい
eスポーツのイベント（大会運営）もOJTの一環として取り組む
- ・OJT時、メトロコンピュータサービスの外国人スタッフからの技術指導は学生にとっても良い経験となった
- ・eスポーツ専攻の卒業生からはコミュニケーション力育成の満足度は高い

【デザイン専攻について】

- ・デザイン専攻は課題としての作品制作に対する時間数が少ないため、課題をこなすことができないことに対して不満を感じている学生が多い
→「時間をかければ良い」のではなく「時間内に制作する」ということが実践としては必要ではあるため、それをしっかり学生に理解させることが必要
- ・相手が何を求めているのかを意識させることが大切
→自分の考えではなく、お客様（依頼者）の考えが重要であることを意識させる（お客様の考えにプロの考えを加えて最適解を見つけていく）
※講師から「なぜ、そのような指導をするのか」ということをしっかり説明することも大切

(3) 就職について

令和4年度卒業者の就職内定率 94.9%（3月14日現在）

- ・事務専攻の学生は既卒者と同じ求人を利用していることもあり、卒業間近にならないと具体的な就職活動ができないため、動き出しが遅くなっている。
※現在も就職活動を続けている
- ・各専攻とも基本的に専門職で就職しているが、機械の製造管理やサービス業での就職もある（途中で適性に合わせて就職希望が変化する）
- ・次年度の求人状況は良いが、eスポーツ・デザイン・事務専攻については樂觀できないので、継続して開拓する必要がある
- ・県外への就職が多いのは、県外からの求人が早く、対する県内の企業の採用活動が遅いことが大きいと思われる
- ・最初から県外を優先する学生は少ない（県内にもこだわっていない）ため、最初に説明を聞いた企業が基準となって就職活動をすることになっている
- ・特定のスキルよりも、コミュニケーション力を重視して採用する傾向にある

(4) 資格取得の状況について

基本情報技術者試験 15名合格 (1年生)

合格できていない学生のフォローをしっかりと行い不合格によるモチベーションの低下を防ぐ必要がある

基本情報技術者試験の制度が変更になる

→変更にあわせてカリキュラム内容の変更も必要

(5) 次年度の取り組みについて

OJTの取り組み強化

・メトロコンピュータサービスとの連携、およびeスポーツ大会の運営を

OJTとして取り組む

グループ学習の取り組み

・チームビルディングの授業を導入する

色彩検定の全学生取り組み

・配色に関する知識はどの職種でも必要になる

外部のプログラムコンテストの活用

・基礎的な言語教育と実践力強化を目的に取り組む

・結果によって就職にもつながる

デザイン専攻については、利用機械を更新して新しいことに取り組むことができるような環境にしている (プログラミングに関する取り組みも行う)

以上